



2025 事業案内



一般社団法人
経済同友会インターンシップ推進協会

協会概要

経済同友会インターンシップ推進協会とは

望ましい産学連携教育を実践する観点から、大学・高専の正課授業として教育効果の高い「経済同友会インターンシップ」を主催している一般社団法人です。当協会の趣旨に賛同する経済同友会会員企業の有志と大学・国立高専機構が会員となっています。

実習にあたり、会員の意向をベースに適切なマッチングを行って学生の成長を後押ししています。また、実習に関する成果報告会や会員による交流会を開催することで、会員相互の成果の共有と連携を行い、次世代人材の育成に寄与しています。

名 称

一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会



(URL : <https://www.doyukai-internship.or.jp/>)

設 立

2019年4月1日

所在地

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-4-6 日本工業倶楽部別館5階 経済同友会事務局内

E-mail : kyokai@doyukai-internship.or.jp

代表者

代表理事 横尾 敬介

目的と事業内容

望ましい産学連携教育の実践の観点から教育効果の高いインターンシップを推進することにより、次世代人材の育成に寄与し、もってわが国の経済社会の発展に資することを目的として、以下に掲げる事業を実施。

- (1) 学生と企業を適切にマッチングするための情報の収集及び提供
- (2) 会員・経済同友会関係者、学生及びインターンシップOBOGによる交流会の運営
- (3) インターンシップの推進、調整、実態把握及び連携協力に関する活動

入会金

20万円 ※正会員のみ

年会費

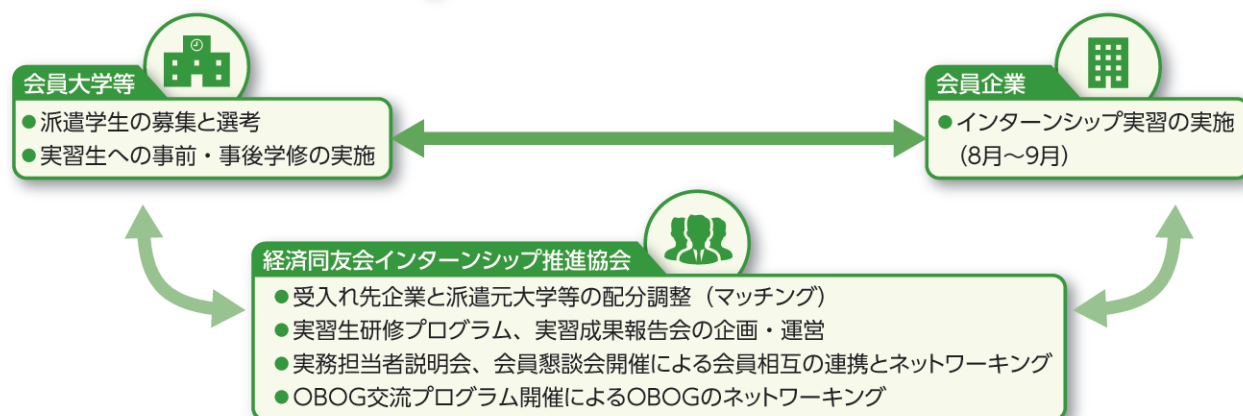
正会員 40万円

※大学・高専は派遣学生数6人まで同額。7人目から別途1人2万円追加。

準会員 5万円

インターンシップの概要

会員大学等、会員企業と経済同友会インターンシップ推進協会の役割は次のとおりです。



望ましい枠組み

1 対象は大学1・2年生／高専本科4年生・専攻科1年生

早い時期から学生が実社会で学び、気づきを得ることでキャリア意識を涵養し、以後の学修やキャリア形成に活かします。

2 単位認定を行い、正課教育の一環として位置づけ

大学・高専では、教員がプログラム内容に関与する正課授業として位置づけられ、意欲ある学生を募集・選考して実習先へ派遣します。実習生への事前・事後学修を含めた教育指導により学生の成長を促します。

3 実習期間は2週間以上

教育効果の高いインターンシップ体験のため、おおむね2週間以上の実習期間が確保されています。

4 実習生受入れ先企業が交通費・宿泊費を支給

学生の経済的負担に配慮し、実習先までの交通費と実習期間中の宿泊費は受入れ先企業が負担します。

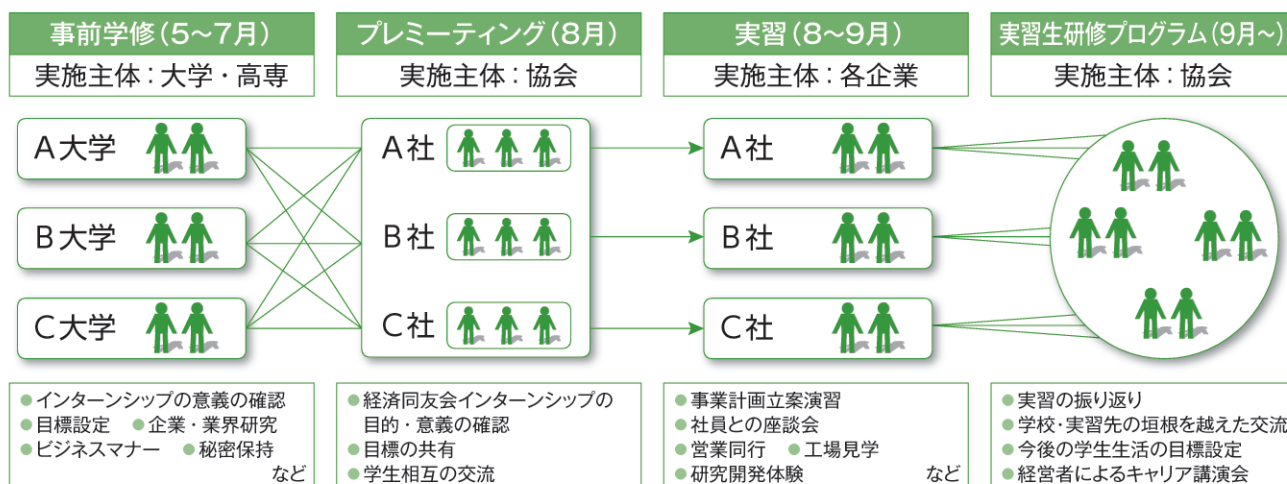
正会員企業・大学等と実習生の実績推移

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
企業	24社	24社	23社	23社	28社	28社
大学・高専	14校	18校	19校	19校	19校	19校
学生	123名	61名	111名	152名	179名	151名

インターンシップ実施の流れ

※各企業、大学、高専の事情により詳細は異なる

	企業	大学・高専	学生
11月		次年度の夏季休業期間を協会へ提出	
12月	【協会主催】実務担当者説明会（方針説明）		
1月	次年度インターンシップの参加意向調査を協会へ提出		
2月			
3月	協会から企業及び大学・高専のマッチング枠確定・通知		
4月	マッチング企業へ大学・高専から コンタクト開始	学生告知	学生応募・選考
5月	インターンシップ実習の詳細決定 →実習に関する事前課題などを大学・高専へ提示 →実習プログラムを事務局へ提出	学生募集～学生選考	
6月		実習生名簿を受入企業と事務局へ提出	
7月	事前学修		
7月	企業と大学・高専の覚書取り交わし		
8月			【協会主催】実習生プレミーティング
9月	インターンシップ		
9月		学内実習報告会（9月～12月の中で実施）	
10月	【協会主催】会員勉強会		【協会主催】キャリア講演会
11月	【協会主催】実習成果報告会		



2024年度 経済同友会インターンシップ 学生・企業の声

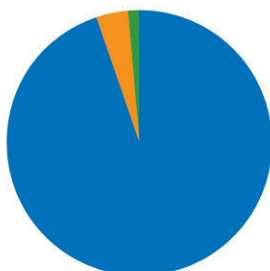
学 生

●2024年度実績

実習参加者数：162名（うち11名はM1エンカレ）

経済同友会インターンシップに参加した全体的な満足度

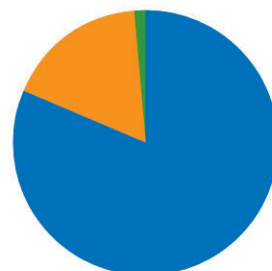
非常に満足した	145
やや満足した	6
どちらでもない	2
満足していない	0



満足度：98.7%

経済同友会インターンシップへの参加を通じて自分自身が成長したと実感できますか？

非常に実感できた	124
実感できた	28
どちらでもない	1
実感できなかった	0



実感度：99.3%

※回答率94%

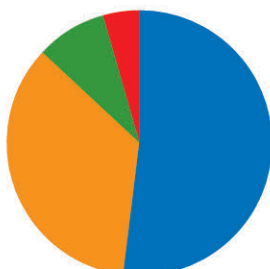
企 業

●2024年度実績

実習参加企業：28社

経済同友会インターンシップに参加した満足度

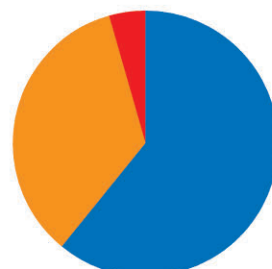
非常に満足した	12
やや満足した	8
どちらでもない	2
満足していない	1



満足度：87.0%

参加学生に対する満足度

非常に満足した	14
やや満足した	8
どちらでもない	0
満足していない	1



満足度：95.7%

※回答率82%

学生・企業の声

学生の声

- 企業、自分、キャリアのすべてにおいて、深く理解する機会をいただき、働くことの意義を身に染みて感じた。
- 普段関わり合えない仲間と頭を抱えて考える経験ができた。ビジネスの思考法を基に現象をとらえることは初めてで、うまくいかないことに葛藤を覚えたが、役員や社員の方から直接フィードバックをいただき、何度も話し合いをしたことで、考え方が成長したことを実感した。
- 大学1・2年生の時期にインターンシップを行うと、その後の学校生活や将来への考え方が必ず変わる。絶対参加するべき。
- 非常に貴重な機会であったが、参加するだけでは意味がなく、主体性をもってどんどん意見を発信していかなければならないと感じた。

企業の声

- 若手社員が未経験者を一から指導・育成する場をつくることができ、自社にとっても良い機会となった。
- 実習生が「自分から発信しないと個の活動に留まる。それが学生と社会人の違いだと分かった」とコメントしていたことが、強く印象に残った。
- 積極性、真面目さ、吸収力があり、伝えたことをすぐに実践していたことから、担当者一同、学生の多大な可能性に心を動かされた。
- こちらの指示なく学生同士で反省会を行うなど、成長意欲の高い学生が多く、当社の想像を超えたアウトプットが得られてとても参考になった。

大学院生修士課程1年生の インターンシップ「M1エンカレ」

大学院生が企業での就業体験を通じて、研究への意欲やキャリア観を醸成する産学連携教育の一環として、2024年度より「M1エンカレ」インターンシップを開始しました。

実習を通して大学院生と企業双方の理解が深まれば、就職につながることも期待できるインターンシップです。

※エンカレ：encourage（奨励）とintercollege（大学間交流）を結び付けた造語

参加資格

経済同友会インターンシップ推進協会の正会員で、学部対象インターンシップに参加している会員企業・大学

対象学生

参加を希望する会員大学の大学院修士課程1年生

M1エンカレのめざすところ

- 企業は学生の専門的な志向と企業ニーズを調和させ、戦略的な人材開発に活用する。
- 大学は学生に実践経験を積める場・機会を提供して、社会に必要とされる人材育成に貢献する。
- 大学院生はM1エンカレに参加することで、自身の研究視野を広げ、社会実装を意識した研究企画を立案する能力を身につける。

M1エンカレの概要

- ①**運営体制**：大学院は正課科目として位置づけ、全学的に実施できる運営体制を構築（研究科ごとの参加も可とします）。
- ②**プログラム**：企業は参加学生のコンピテンシーを育成し、研究と企業の業務体験を結び付ける、より実践的なプログラムを提供する。
- ③**期間**：学生の夏季休暇期間中に4週間以上。当面は最小実習期間2週間（10営業日）を予定しています。
- ④**参加費**：参加費は20万円（受け入れ・派遣の実績に応じて請求）
※企業には実習先までの交通費・実習期間中の宿泊費をご負担いただきます。
※大学は参加費の中で3人まで派遣でき、4人目から別途1人2万円を追加いただきます。

正会員企業・大学等と実習生の実績値

2024年度	企業	7社
	大学	4校
	学生	11名

実施に関するFAQ

FAQ【企業】

Q1 学生の受け入れに際し、特定の学校を指定することはできますか？

A 特定の学校を指定することはできません。
当協会は、特定の企業に特定の学校の学生が偏らないよう留意して、マッチングを行っています。

Q2 一定水準以上の知識・スキル（語学力・ITスキル・特定の選考分野に関する知識など）を有する学生に限って受け入れることは可能ですか？

A 可能です。ただし、大学1・2年生又は高専本科4年生・専攻科1年生を対象とするプログラムであることにご留意いただき、過度に高度な知識・スキルを求めることはお控えください。

Q3 実習の一部または全部について、自社が独自に行うインターンシップと合同で実施することはできますか？

A 実施できます。ただし、所定の実習期間（概ね2週間以上）が確保できているかという点と、正課科目で単位が認定される教育プログラムとして相応しい内容を備えているかという点にご留意ください。

Q4 部門ごとに対象となる学生を変えて、複数の実習プログラムを設けて、学生を受け入れることはできますか？

A 所定の実習期間（概ね2週間以上）が確保されていれば、同一企業内でも、複数の実習プログラムを設定していただくのは問題ありません。

Q5 会員となっている企業だけでなく、グループ会社でも実習を実施しても良いですか？

A 会員企業の実習の一部として受け入れ可能です。ただし覚書などは会員企業が大学等と締結していただきます。

FAQ【大学／高専等】

Q1 派遣する際に特定の企業を指定することはできますか？

A 受入れ先企業の指定はできません。
当協会では、特定の学校の学生が特定の企業に偏らないよう留意してマッチングを行っています。

Q2 6名を超えて学生を派遣する場合、人数の指定は可能ですか？

A ご希望人数をお示ししていただくことは可能ですが、必ずしもご希望の人数枠分をマッチングできるわけではありません。

Q3 大学3年生を派遣することは可能でしょうか？

A 大学・高専の低学年を対象としていますので3年生を派遣することはできません。

Q4 インターンシップに参加するにあたり、単位認定を必ず行う必要がありますか？

A 経済同友会インターンシップは、正課教育の一環として行っているため、実習生に対しては、各大学・高専の基準に則り、単位を認定していただくことが必須です。なお、単位数の指定はありません。

Q5 大学・高専が実施する事前・事後学修について、日数や内容の条件・制約はありますか？

A 大学・高専で工夫を凝らして自由に実施していただいていますので、条件や制約等はありません。

2024年度 経済同友会インターンシップ実習事例

概要

2024年度は企業28社、18大学と国立高専機構、学生151名が経済同友会インターンシップに参加しました。企業はワークやディスカッション、現場体験や交流会などのプログラムを実施し、学生は実社会での就業体験から多くの学びや気づきを得ました（成長実感度99.3%）。当ページでは、2024年度に学生を受け入れたオイシックス・ラ・大地、シグマクシス、日本信号（M1エンカレ）の活動と学生の体験談を紹介します。

オイシックス・ラ・大地



10日

実習日数



実習地

- ・大崎本社
- ・海老名ステーション
- ・Food Rescue Center
- ・オンライン



6名

参加人数



参加学生の
専攻分野

- ・農学部
- ・商学部
- ・法学部 など



8/15～16、19～20

8/21

8/22～27

8/28

会社概要・取組案内、ワーク
オフィスツアー、お客様理解
商流理解、拠点理解
生産者からの取組案内

物流センター見学

グループごと発表準備・
ワーク、役員との壁打ち
中間発表、FB

最終発表
振り返り
懇談会

企業担当者からの声

『食領域の新しい当たり前』を創る企業として、食課題に対するサービス立案を行う、10日間のプログラムを提供しています。川上～川下まで全てを担っている弊社として、企業／事業理解、生産者との交流、物流センター見学等、食のバリューチェーン全体を体験できる内容です。

また、現状の食課題に対する新サービスを考えていただくうえで、マーケティング専門役員や社員からの講義やフィードバックを多数実施しましたが、高い当事者意識で学びを深め、サービス立案してくれた学生たちとの交流は、弊社にとっても大きな学びとなる相互成長の機会となりました。

シグマクシス



10日

実習日数



実習地

- ・港区本社
- ・X-base 原宿



6名

参加人数



参加学生の
専攻分野

- ・情報学部
- ・経済学部
- ・教育学部 など



問題解決の基礎

8/26～30

座学

ケース演習

レビュー

発表

プロジェクトマネジメントの基礎

9/2～6

座学

ケース演習

レビュー

発表

企業担当者からの声

本インターンシップでは、「構想力」「道具力」「実現力」を高める、当社の新入社員向けラーニングプログラムとほぼ同様のコンテンツを体験していただきました。企業変革をリードする人財のスキルセットのうち、「問題解決」、「プロジェクトマネジメント」習得をスコープとして、実力向上のための講義だけでなくワークとフィードバックを繰り返す設計です。短時間のワーク反復に、学生は緊張感と刺激を持ちながら取り組んでいます。

社会では正解が一つでないことも多い中、参加した学生からは「答えのない世界で自分なりに最適解を創り出せた」という声が寄せられ、意義あるキャリア教育の場となりました。大学の枠を超えた交流も好評で、本プログラムの参加者が翌年度のインターンを経てオファーに至った実績もあります。

日本信号

10日
実習日数



実習地

- ・シグナリオ宇都宮
- ・宇都宮事業所
- ・久喜事業所
- ・東京本社



参加学生の
専攻分野

- ・理工学研究科
電気電子情報専攻



M1
エンカレ



8/27

下今市見学、SL乗車

8/28～30

企業概要説明等
技術部実習
発表準備

9/2～5

技術部講和
技術部での実習
発表準備

9/6

発表
企業からの
フィードバック

企業担当者からの声

日本信号は、「安全と信頼」の優れたテクノロジーを通じて、より安心、快適な社会の実現に貢献するインフラメーカーです。企業理解、事業所見学、技術部での実習や現地で設置されている製品の見学を通して、日本信号のものづくりやそのうえで大切にしている考え方を学んでいただきました。

目的意識を持ってご参加いただき、参加者の興味や関心を深めていただきとても嬉しく思います。参加者にとってより意義のあるインターンシップになるよう、今後も務めてまいります。

学生体験談



東洋大学
食環境科学部
健康栄養学科
亀山 紗希さん

実習先 日本たばこ産業（テールマーク）

私はJT（テールマーク）のインターンシップに参加し、生産から営業までの商品流通を持続可能な食料システムの観点から学びました。世界や企業、個人がどう変わるべきかを考えるとともに、誰といつ食べるか、見た目や原材料など多角的な視点での商品開発を経験し、価値ある開発の奥深さを実感しました。また、意見を伝えることへの苦手意識を克服できたことは大きな成長です。食を通じて人々に笑顔を届ける力を実感し、将来はその一員として社会に貢献したいと考えています。貴重な学びと成長の機会をくださった皆様に心から感謝しています。

実習先 ADEKA

私は生命科学を専攻しており、実践経験を積むために株式会社ADEKAの実習に参加しました。食品と化学品の両事業を展開する同社は、100年以上の歴史を持つ化学メーカーです。一つでも多くの学びを得ようと取り組んでいたところ、社員の方々が話しかけやすい環境を作ってくださり、温かな社風を実感しました。「学びを活かせること」、「人間関係の良さ」を働く軸に置いていた私は、実習に参加したことで、ADEKAへの就職を希望し、内定をいただきました。挑戦を恐れず前に進む姿勢は必ず誰かに届き、未来につながります。M1エンカレは、その一歩を踏み出す絶好の機会だと思います。

M1
エンカレ



北海道大学
生命科学院
生命システム
科学コース
那須 友哉さん

入会のご案内

経済同友会インターンシップの主旨に賛同され、ご入会を検討される企業・大学の方に

- 当協会には、企業・大学・高専いずれも法人会員として入会いただいております。
- 企業のご入会は、公益社団法人経済同友会会員の所属企業に限らせていただきます。
- 入会金20万円 ※正会員のみ
- 年会費40万円

企業は、一律40万円です。大学・高専は、40万円に学生6人分の派遣費を含んでおり、7人目からは、別途、1人2万円をいただきます。

■企業の方

研修プログラム内容などについて実習生派遣校の教職員との連携・協力・調整を行うとともに、学生の宿泊費・交通費などの費用をご負担くださり、おおむね2週間以上の期間、学生を受け入れていただける企業にご入会をお願いしております。

■大学の方

大学・高専の正課（授業）として単位を付与して実施するもので、学生の受け入れのための宿泊費・交通費などの費用については企業にご負担いただいております、大学・学生の負担はありません。

自ら参加を希望する意欲・意識の高い学生を選考して、事前・事後の学修を実施、おおむね2週間以上の期間にわたる研修プログラムなどについて、受入れ先企業との連携・協力・調整を十分に行っていただける大学にご入会をお願いしております。

入会のメリット

■企業の方

- 望ましい産学連携教育として、会員大学・高専から高い支持を得ているインターンシップ事業に参画いただくことで、企業として次世代人材の育成に貢献することができます。
- 全国の特色ある大学・高専から選考された意欲的な学生を対象に比較的長期の実習を行うことで、企業や業界に対する理解と認知度の向上が得られ、将来の採用につながる効果も期待できます。
- 学生のピュアな感覚・斬新なアイデアに接することにより、指導を担当する社員の育成にも寄与します。
- 実習成果報告会など会員相互の交流機会により、企業の人事・採用担当者と大学・高専のキャリア教育担当者のネットワーク構築につながります。

■大学の方

- 日本を代表する企業のインターンシッププログラムに参加することができます。
- 学生の仕事についての理解が深まり、自らの職業適性を見極めることができ、有意義な職業選択につながります。
- 実習先までの交通費と実習期間中の宿泊費は受け入れ企業にご負担いただくことにより、学生は安心してインターンシップ実習に取り組むことができます。

役員紹介



会長

新浪 剛史

経済同友会
代表幹事

望ましい枠組みとしての インターンシップが社会を変える

グローバル化やデジタル化の進展により、世界経済が目まぐるしく変化するなか、学生へのキャリア教育の必要性はますます高まっています。

大学での学びと企業や社会での学びを連続的に捉えたうえで、世界で活躍する人材を育成するために、経済同友会は「インターンシップの強化・充実」を提言しました。

経済同友会インターンシップ推進協会は、この提言を具現化するために設立され、趣旨に賛同する会員企業・大学等により、望ましい枠組みとしてのインターンシップが展開されています。大学・高専は正課として単位を付与し、企業は充実した現場指導とともに費用を負担するなどして学生の成長を後押ししています。

次世代人材の育成を通じた社会貢献の取組みに共感する多くの皆様にご入会を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



代表理事

横尾 敬介

産業革新投資機構
代表取締役社長 CEO

企業という実社会で学ぶ リアリティが学生を成長させる

これからの混沌とした時代を生きていく学生たちにとって、教育効果の高いインターンシップは一層重要性を増しており、企業という実社会で学ぶリアリティは、教育機関が提供できない貴重な体験です。

企業では、さまざまな価値観を持つ人々がその能力に応じて役割を担い、協力し合うことで、全体の成果に結びつけています。

当協会のインターンシップは、意識の高い学生たちが早い時期からこうした人々に学ぶ機会を提供しており、多くの“気づき”を得ることができます。

教職員の皆様には、貴重で得がたい体験を経て、キャリア・デザインを描きながら努力する学生たちの成長支援をお願いいたします。

当協会は、学生時代にしっかり学び、卒業後に社会で活躍する若者たちをサポートして参りますので、志を同じくする皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

専務理事・事務局長

青木 剛

経済同友会 調査役

理事（五十音順）

天羽 稔

TGA 取締役会長 元デュポン 名誉会長

尾崎 由紀子

野村ホールディングス 執行役員CHRO 兼 健康経営推進責任者(CHO)

高祖 敏明

上智大学 名誉教授

坂井 和則

TOPPANホールディングス 副社長執行役員CHRO

矢口 悦子

東洋大学 学長

監事（五十音順）

安藤 徹

龍谷大学 学長

小野 傑

西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 外部顧問



一般社団法人

経済同友会インターンシップ推進協会

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-4-6 日本工業倶楽部別館5階 経済同友会事務局内

E-mail : kyokai@doyukai-internship.or.jp

<https://www.doyukai-internship.or.jp>



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

2025.07 作成